岩盤ボーリング柱状図

調査名	主要地方道　東城西城線　測量設計地質調査業務委託（道路改良・単独）
事業名 または 工事名	主要地方道　東城西城線　（道路改良・単独）
調査目的及び調査対象	道路 掘削・掘削のり面

ボーリング名	R4-B-2	**調査位置**	広島県庄原市東城町保田			**北緯**	34° 55′ 53.83″
発注機関	広島県北部建設事務所庄原支所			**調査期間**	2022年 11月 21日 ～ 2022年 12月 2日	**東経**	133° 10′ 51.73″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**	**ボーリング責任者**
孔口標高	T.P. 592.04m	**角度**	180°（上）／0°（下）／90°	**方位**	北 0°／270°（西）／90°（東）／180°（南）	**地盤勾配**	水平0°／鉛直90°
総削孔長	22.00m	**使用機種**	**試錐機** YBM YSO-1HA	**エンジン**	ヤンマーNFD-10	**ポンプ**	GP-5

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名（模様）	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	地層名	記事	孔内水位／測定月日	ルジオン試験 ルジオン値	ルジオン試験 P－Q 図 P：有効注入圧力 MPa Q：注入量 1/min/m ( )：換算ルジオン値 (( ))：限界圧力	原位置試験	室内試験	削孔状況 削孔月日	削孔速度 (cm/h)	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	削孔水・送水量 (L/min)	排水量 (L/min)
	591.74	0.30		表土	茶褐									上部、腐植土。以深、細粒砂を主とした砂質土。φ150mm程度の転石挟む。								115／B2	SCT/MC	0.4	160	0.0	W1／0	0
1				泥岩	赤褐	w5	h1	D	V	d	D	5 [0] (100)		細粒砂を基調とし、固結した砂質粘土状を呈す。 岩組織を明瞭に残し1.90m以深から礫状の岩芯を残す。 所々に礫状の岩芯を残し、硬軟の互層となる。 0.00m～4.45mは泥岩の強風化帯で、岩はφ0.5～5cmに礫状化し、不規則クラックが細かに発達する。 泥岩は塊状である。						11／22	90／B2	WCT/MC	0.4	160	1.0	W3／30	30
2												3 [0] (100)																
3												4 [0] (100)																
4												2 [0] (100)											WCT/DB	0.4	260	0.1	W3／5	5
5												5 [0] (100)																
	586.44	5.60										5 [0] (100)																
6					赤褐	w4	h1	D	IV	d		3 [0] (100)		全体にやや軟質で固結した砂質粘土状～微細砂を主体とする。 深度7.00m以深、全逸水。 5.60m～10.00mは岩芯まで風化が及んでおり、やや軟質である。 不規則クラックが発達し、クラック沿いは黒色化する。クラックは10°～45°傾斜が多い。															
7												5 [0] (100)																
8												2 [0] (100)												0.2	160	1.0	W3／30	0
9	583.04	9.00																		11／23								
10					黄褐	w4	h1	D	IV	d		2 [0] (100)		8.45m～10.00m間は、クラックは60°～85°傾斜が増加する。									WCT/MC					
												5 [0] (100)																
11	581.04	11.00										1 [0] (100)		全体にやや軟質で固結した砂質粘土状～微細砂状を主体とする。 深度12.90m以深、礫状の岩芯を残し硬質な部分を挟み硬軟の繰り返す。 11.00m～14.00mは傾斜70°～90°の剪断クラックが発達しており、これに沿う風化で岩はやや軟質化する。 クラック沿いは一部φ2mm以下に角礫化～砂状化する。 14.60m付近から岩芯は手で折れない程固くなる。しかし不規則クラックは多く、16.20mまでこの状態は続く。 15.00m～15.60mは傾斜90°の剪断クラックがみられる。これに沿って幅3cm内は、微細クラックが集中する。	11/29 12.90													
12												2 [0] (100)																
13												1 [0] (100)																
14					黄褐	w4	h1	D	V	d		1 [0] (100)			11/30 14.70					11／28				0.6	160	1.0	W3／30	15
15												3 [0] (100)																
16												5 [0] (100)																
17	575.04	17.00																										
18					黄褐	w3	h1	C	IV	c	CL	5 [0] (100)		深度18.00m以深から比較的、良質な棒状コアを呈す。 16.20m～22.00mは岩芯は固いが、傾斜45°～80°のクラックが1～50cm間隔に発達する。 泥岩は大旨塊状であるが、傾斜40°～50°のラミナがわずかに認められる。 20.00m～22.00mは所々に亀裂を残すが、棒状コアを呈し硬質。															
												7 [0] (100)																
19												5 [0] (100)								11／29			WCT/DB	0.4	260	0.2	W3／5	2
20												6 [0] (100)																
21												5 [0] (100)																
	570.04	22.00																		11／30								